



育てている野菜とこれまでの観察記録の写真を比べることで、
野菜の成長や変化の様子を見付ける。

小学校第2学年 生活科 「大きくそだて わたしの 野さい」

■単元の目標

野菜を継続的に栽培する活動を通して、野菜の育つ場所や変化や成長の様子に着目して、野菜は生命をもっていることや成長に応じた世話の仕方があることに気付き、親しみをもって野菜に継続的に関わろうとすることができるようにする。

■単元の概要

夏野菜の栽培活動を日常的に行う中で、野菜の生育環境や野菜の変化や成長に合わせた世話を行っていく。そこでは、これまでの経験を生かしたり他の野菜と比べたりしながら、野菜に合った栽培方法に気付いていく。活動の様子を本にまとめ、その思いを保護者に伝えていく。

■単元の指導計画（20時間）

第1小单元

「野菜について知ろう」

- ・ 今までの栽培経験について伝え合う
- ・ 夏野菜の栽培について思いや願いを高める
- ・ 自分で育てたい野菜を調べる

第2小单元

「野菜を大きく、元気に育てよう」

- ・ 植木鉢や畑の土を準備する
- ・ 水やりや追肥などの世話をする
- ・ 野菜の成長を観察したり伝え合ったりする

第3小单元

「野菜を収穫して、栽培を振り返ろう」

- ・ 時期を意識しながら収穫する
- ・ 野菜を栽培したことを伝え合う
- ・ 「野菜の栽培と私」という本を書く

■小単元の概要

野菜の栽培活動について、今までの経験やデジタル図鑑などから、野菜を栽培していくことに対する思いや願いを高める。自分が育てたい野菜を調べ、野菜の種類によって栽培に適切な時期や方法があることに関心をもつ。

つぼみができた時や花が咲いた時、実ができた時、葉の色が変化した時などの変化や成長の様子を発見したり、不思議に思ったことなどを写真で撮影しながら記録したりして蓄積する。学級全体で伝え合う場面では、蓄積した写真を大型モニタに映し、疑問を明らかにすることで気付きの質が高まるようにする。

野菜を収穫できた喜びや達成感から、これまでの栽培活動を子供一人一人が蓄積したデジタルデータで振り返る。5月から始めた栽培活動を時系列に並べたり、心に残ったことベスト3として選んだりして本を作成する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2小単元）

【学習活動の場面】

自分の植木鉢にミニトマトの苗を植えて2週間が経過した。その間、小さなつぼみができたことや黄色い花が咲いたこと、黄色い花が落ちると緑色の小さな実がなっていることなどを友達と伝え合い始めていた。そこで子供一人一人がミニトマトの変化や成長に気付けるように、教師は「今日もミニトマトを育てながら、端末で写真を撮影して変化や成長の様子を観察しましょう」と投げかけた。

【子供の「深い学び」の姿】

最初、Aは次のように予想しながらミニトマトのもとへ向かった。

A「私のミニトマトも、もしかしたら実になっているかも。」
観察すると、小さい実が3つになっていることを発見した。



そしてAは、自分のミニトマトとこれまでに端末で撮影した写真を比べ、

A「やっぱり、小さな実のところと花の咲いていたところは同じだよ。」と、実と花が一緒の場所であることに気付いた。

A「他の場所の花も、小さい実になるのかな。写真を撮っておこう。」とつぶやきながら端末で撮影した。そして画像編集機能を活用して花に印を付けた。

教室に戻り、発見したことを学級全体で伝え合った。そして、Aは次のようにミニトマトの変化を見通して栽培ノートに記述した。

A「こんなに早く実ができるなんて思わなかった。花の数だけ実ができるのかな。これから毎日観察しよう。小さな実がミニトマトの大きさになる日数を数えてみたい。どれくらいで大きくなるのかな？楽しみ。」

【当該指導での「深い学び」】

端末でこれまでに観察した写真を並べて比べることで、自分のミニトマトの変化や成長には規則性があることに気付いた。こうした活動を継続することで、ミニトマトの変化や成長について、日数や実の大きさなどを意識しながら、意欲的に栽培していこうとする思いや願いが高まる。

■指導上の工夫とICTの利活用

① 端末を活用し、子供一人一人が興味・関心に応じて、野菜を観察できるようにしている。

* 端末を使って比べるだけでなく、友達の発見を聞いたり、友達のミニトマトを見たりしながら比べる。このような状況を作ることで、観察する視点が多様になり、興味・関心を広げることができる。

② 変化や成長の様子を比べやすい状況を作る。

* 自分のミニトマトとこれまでの成長過程の写真を比べることにより、視覚的な変化や成長の様子に気付くことができる。

③ 子供一人一人が発見したことを伝え合い、栽培活動への思いや願いを表現する時間を確保する。

* 野菜の変化や成長に着目して伝え合う活動を位置付け、それを文章に表すことで自らの考えを深いものにしていく。

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第5節 生活

第2の2の（7）

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、**それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに**、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

第3の2の（3）

(3) 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、**見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動**を行うようにすること。